

江浙蠶桑紀事

855



114
A 3812

江浙蠶桑紀事



凡例

一 蠶事の盛大にして且つ繅絲乃精純なるは支那全國中にて於て江蘇浙江兩省地方に若くはこれより小亜細亞の四川に至る然りて躬自ら實地を経歴し事業を査問し大體に專ら江浙の地方に係り其他に便り就て傳聞せしむるの少きを以て

一 此書は目録ありて江浙を以てとすは一に其事

大正十一年四月
隈侯爵邸寄贈

業の盛大精純なるを因り二、実地を巡廻視
聴せぬを以て録せるところ他小比すまの少
しく審するに如く故り題して江浙蠶桑紀事
と云ふ

一 記す所は乃里數秤量尺寸の類ハ凡て本邦法
規小依り他の法に就く録すとすれば細註を
加へ以て其異なれを示す

一 載記する所のは六月小始り十月に終り
今より能く耳目するものハ卷末小収録を
一 經歷巡視せるのハ是は蠶事既に終り其期に

りらざるを以て咨問を致しをれハと易うら
ひ加之なりと通辨の大小乏しく當り一二の
書籍に於て筆談態話漸く討論せるを以て事
実迂曲し隔靴の歎無きと克く以て況んや文な
くまのすなはち頗る困迫せり爰を以て掲
載するに條數相錯交し閱者の責誠招くとの最
多し恐懼慚愧躬を容れ、其地より其罪を免
るゝと欲得を幸甚し

紀元二千五百三十五年十月二十九日於
支那福建省城中之寓舎

南部 陳 謹 識

江浙蠶桑紀事

目叙

總論

培桑并地質

蠶室居家概畧

器械

養育并季候

繅絲

織造

雜
附錄
閩廣之記

江浙蠶桑紀事

南部 陳編輯
滿川成種 校合

總論

支那ニ蠶桑ノ道ノ始テ開ケタルハ最久シキ古ヘ
ナルコトハ世々ノ歴史ニ徃々之ヲ記載シ亦々歐
洲ノ書籍ニモ蠶事ヲ此國ヨリ傳ヘタルコトヲ掲
載セリ其國ヲ富マシ民ヲ牧スルノ裨益アルコトハ
諸子百家ノ書ニ詳カナルハ爰ニ贅セス

支那ニ於テ蠶事ノ精ニシテ且ツ大ニナルハ江蘇
浙江ノ二省ニ若クハナシ中ニ就テ最モ純粹精緻
ナルハ嘉湖杭ノ三府則チ太湖東南ノ沿岸ニシテ
四方殆ント数十里唯看ル桑林鬱々乎トシテ山岳
ノ眼ヲ遮ルナシ

凡ソ蠶ヲ養フ者ハ其意專ラ繅絲ニ在リテ製卵ニ
アリス只各自來年ノ要ニ充ルカ為ニ豫メ算計ヲ
精爾ヲ撰ミ火力ヲ假テ化蛾ヲ促シ蛾ノ化生スル
ノ多少ニ隨ヒ今年孵化シタル種紙ノ裏アルヒハ
薄紙ト雖モ敢テ論セス紙表卵顆ノ粗密ニ関セス

産種セシム素ヨリ外國輸出スルニアラサレハ一
紙ノ卵顆幾許ト云ヘルコト無ク亦々種紙ノ縱横
寸尺ノ規アルコト無シ輸出の禁ハ只老練ナル者
ハ製卵シテマム他ニ販与スルナキニアラスト
雖モ概ノ之ヲ云ハハ繅絲ニ專ニシテ製卵ニ否ラ
スト言ハサルコトヲ得ズ

江浙及各地人民ニ洪益ナル蠶桑ノ事業ヲ熟察ス
ルニ抑亦々各自繅絲ニ安ンシ敢テ製卵ヲ主トセ
サルニアラサル乎夫ノ製卵ヲ專トシテ以ニ大利
ヲ得ルニ彼ニ巨害ヲ醸シ吉凶悔吝屢轉旋スルニ

比スレハ只顧ニ線絲ニ從事スルノ安ク且ツ益ナ
ルニ如サラン況ニヤ數年ノ間ニハ天時非常ノ災害
アルモノナルヲヤ

浙江ノ線絲ノ專テ洋外ニ輸出スルモノハ湖只嘉
興ノモノヲ駁去ナリトス而シテ上海ニ輸シテ
以テ洋商ニ取附ス

江蘇各処ノ産絲亦々輸出スト雖モ嘉湖ニ比スレ
ハ少ナリトス

乾隆ノ末年ニ線絲輸出ノ禁令ヲ布クト雖トモ行
ハレス尔来歲月ヲ逐ヒ愈昌ニシテマスキ盛ニ

ナリシニ長毛ノ賊乱十數年ニ滿リ江浙ノ地ハ賊
炎熾盛ノ中ニ在リテ残殺暴虐至テサル処ナク衆
庶流亡スル戎百万城市赤土ニ歸シテ農桑トモニ
廢レ田園悉ク荒蕪セリ

賊徒誅殲ノ後テ江蘇省ノ總督曹國藩印卒後小文正正
公金陵ニ桑棉局ヲ設ケテ蠶桑ノ業ヲ勸奨シ或
ヒハ各地流亡ノ人民故郷ニ歸リ歲月ヲ經ル今ニ
十有餘年漸ク盛昌ニ復セリト雖モ今ヲ以テ賊乱
ノ前ニ比スレハ猶未タ三分ノ二ニ至ラサルヘシ
何ントナレハ艸萊彌蔓セル地多クナリ

今經歷巡視シタル所ヲ以テ三十年ノ後ヲ想像熟考スルニ支那生産ノ繰繰蕃殖シテ終ニ低價ノ一變ヲナスニ至ルヘシ

江浙ニ亘テ盛ナルハ四川トス黄白ノ二種アリ河南マタ然リ湖北ハ白繭アリ以各地ノモノハ漢口九江等処ヨリ輸出ス然レモ四川河南湖北ノ繰繰ヲ以テ江浙ノモノニ比スレハ品位ノ及ハサルコト遠シ況ニヤ其黄ナルモノ、如キハ素ヨリ亦々今日ノ談ニアラス蓋シ以黄繭ヲ以テ本邦ノ青白種ニ比スレハ大ニ殊異ニシテ其質硬ク且ツ粗

ニ色澤頗ル金光珠ニ似タリ

此等各地繰繰ノ價賤キハ桑樹栽培ノ法及ヒ蠶見養育ノ術トモニ拙ナルノミナラス凡テ不注意ニシテ繰繰ノ粗ナルノ外ナラサルヘシ

支那繰繰ノ洋外ニ輸出セルハ亞細亞洲ニ冠タリト雖レ之ヲ内國ニ費耗スル処ニ比スレハ猶ホ些少ナルカ如シ故ニ輸出ノ多寡ニ因リテ内國ノ價ヲ昂低スルニ至ラス

官位アルモノハ大臣ヨリ微々ノ属吏ニ至ル迄暑ハ外套絨紗內衣之ニ準シ寒ハ綢緞紗綾ヲ襲ヌ以

ヲ以テ庶人マタ官位ヲ購ヒ官位を購ふを以て別
セシ此ヲ衣ルヲ美目トシ船来ノ衣料ヲ用ルハ便
ニ因ルモノニシテ愧ル所アルカ如シ
服制ハ滿州ノ風ニシテ不弁利ナリト雖臣固ク守
リテ改メス他ノ凡百器物ノ如キ殊ニ亦然リ故ニ
外客居留地外ニ在テハ聞達ノ士ト雖臣海外ノ景
況若何ヲ識ルモノ殆ント少ナリ此ノ如ク旧習ヲ
墨守セルハ愚ナリト雖臣曾テ亦各港ノ出入表ヲ
閱スルニ大概子出ルモノ多ク是レ物産饒多
ニ依ルトイハトモ尙然不開化ナルモノ却テ又々

其分厘ヲ維持セル有ルニ似タリ
壓制ノ黔首ヲ愚ニシ開明進步ノ路ヲ塞クハ國
ノ弊風ニシテ蠶車ニモ亦有リ則チ官立ノ織造局
是ナリ
江浙ノ各處則チ金陵湖州杭蘇蘇州トモニ設置シ
各色ヲ織造セルヲ一看セリ嘉興マタ有リト云フ
福建省ハ漳州ニ在リシト雖臣越賊ノ為ニ府城ノ
中外灰燼トナリシ時ヨリ廢止シテ方今私立織造
アレ臣盛ナラス亦又佳ナラス
此ヲ以テ見レハ他ノ各處ニ於テモ亦又多少必ズ

アルヘシト謂ヘリ

織造局ハ監督以下數名ノ委員アリ其大趣意ハ專
ラ皇帝皇妃ノ服飾及ヒ宮中ノ用ニ供スルニ在リ
ト雖モ其矣恐クハ陽ニ云フヘカラサル莫故アル
ヘシト疑ナキヲ得ズ

織造ニ供スル処ノ繰絲ハ湖州ヨリ輸スモノニシ
テ天然豊凶ノ実價ヲ以テ購フトスルオハ穀多ナ
ル俸給雜費ヲ贖フニ処ナシ果シ然ハ繰絲ハ本
價ノ裁分ヲ減スルカ將タ地租ニ課スルノ外ニ他
ノ術アル無カルヘシ

假令ヘ地租ニ課シテ之ヲ収ムルニモセヨ原來官
立ノ製造局ハ意外ノ冗費アルト工人ノ懶惰ニ流
ル、ニヨリ會計上ニ於テ私立製作ノモノニ比ス
レハ裁分カ不慮ニ至ランコト必セリ是レ始メニ
衆庶ヲ勸奨スル為ノ仁術モ終ニ利ヲ射ルノ媒ト
ナレルモノナリ

古ヨリ豪雄互ニ相食ミテ帝位ヲ奪ヒ權道霸術ヲ
以テ黔首ヲ愚ニシ陽ニ仁義ヲ唱ヘテ陰ニ壓制ヲ
主トセル國体ナレハ上ニ掲ル如キハ最小ナルモ
ノニシテ敢テ亦タ異ムニ足ラス

マメ私立織造局アリ金陵ハ殊ニ昌ニテシテ紋緞、
綢緞ヲ第一トス天鵝絨其他各色アリ杭及ハ金陵
ニ伯仲ス縐紗、紗綾ノ類ヲ佳トス他各種アリ蘇州、
湖及紹興ハ金杭ニ及ハスト雖モ各色マメ無キニ
アラス唯織造局ノ數少ナキノミ白素縐ハ各地ニ
アリ白色ノ紬縐ハ陋巷僻邑ノ人民真綿ヲ紡績織
造ニ以テ綢緞行ニ賣ル

各府ノ綢緞行ニ往テ遍ク各色ノモノヲ檢視スル
ニ更ニ新ヲ競ハス依然トシテ旧ニ憑ル茲ニ因テ
支那織造物ノ精粗ヲ熟考スルニ其ノ旧ニヨリテ

草メサルハ時風ニオクル、ニ似タリト雖モ其欺
カサルモノハ美ニシ且ツ庶ナリト賞セスンハア
ラス此一夏ハ支那人ノ為ニ記セサルヲ得サル
ナリ

桑樹并地質

桑園ノ地ハ高平ヲ可トシ低湿ヲ否トスルハ廣蠶
桑説及蠶桑輯要ニ之ヲ論シマタ本邦各地ノ養蠶
翁モ往々之ヲ辨セリ然ルニ蘓州ヨリ湖及ラ經テ
杭州ニ到ルノ間々蠶事盛大ナル地ハ太湖東南ノ
沿岸ニシテ大小幾百流ノ支湖江河ノ縱横ニ圍繞
セル低地ナリ概シテ之ヲ云フトキハ太湖洲渚ノ
一部分トスルモ敢テ穩當ナラストセズ
此ノ如キ地形ナルヲ以テ地平水面ト相比シ亦々
水平ヨリ低下セルアリコ、ヲ以テ縱横無數ノ堤

ヲ莖キ頂上ニ桑ヲ栽ヘ水草茂生スル候ニハ之ヲ
採リテ株ノ傍ニ埋培シ加フルニ淤泥ヲ揚テ根株
ニ盛リ燥ケルヲ認テ之ヲ平坦ニス
嚴冬アルヒハ萌芽ノ前ニハ必ス人糞ヲ培養シ他
雜草ヲ耘ル等ニ注意勉勵スルハ支那人カ他ノ田
園ニ於テ未ダ曾テ見サルナリ

平坦水郷の中ニ地形少しく凸きところあり小人
家ありて其傍ら新桑田ヲ支敷久のち新田有
と雖とも多くハ人工を以て築造せる堤の上
又桑をうゑ其間ハ水田稻米瓜種一沼池魚苗

を育せり

太湖の廣さは約地十萬八千頃にして四方の
經り凡そ三百九十里に亘り一江漢浙江安徽
の三省より連なりといへり今茲に記し以て桑
田の地勢を察す所の一助とす

桑ノ品類數多ナルノ説アリト雖江浙ノ各地ニ
於テ栽培セルモノハ四葉ノ一種ニシテ之ヲ家桑
樹條母桑樹種ノ二種ニ別テリ老農ニ質スルニ家
桑ハ葉多ク且ツ精良ナリ母桑ハ莖ヲ結ヒ萌芽晚
ク葉少ク且ツ佳ナラス然レトモ之ヲ飼ハサル

ニアラス只莖ヲ結ヒ葉ノ少キト佳ナラサルヲ以
テ之ヲ莖トシテ良種ヲ接シタルヲ專要セリト云
へり

此四葉は本邦の市平桑に似て深緑光沢を加
へ脂気ありり如し

浙江省中經歷シタル地方ニハ葉ニ劃込アル桑ヲ
見ズ江蘇省ノ金陵及姑蘇ニテ適看ルト雖此多ク
ハ圓葉ヲ栽培セリ

各地ノ土質肥沃ニシテ中ニモ蠶桑昌盛ノ地ハ湖
辺江潭ナレハ殊ニ勝レタル園圃ナレト嘗テ本邦

於テ桑田ニ必適ト称スル砂礫ノ混濁セル地ハ更
ニアルコトナシ
此ヲ以テ土滓ノ葉ヲ汚サシマテ恐レテ高株ヲ專
トス稀ニ低株アルハ本幹ノ老瘵セルヲ伐リタル
根株ヨリ萌生セシモノナリ
喬木ニ栽培シタルモノハ寒郷僻邑ニハ看ルト雖
ニ盛大ナル地方ニテハ更ニ栽培シタルモノヲ看
ス

蠶桑輯要及ハ廣蠶桑說中ニ桑樹栽培の法を
掲ケ併テ壓條ノことを記載シテ詳クたり然レ

と實地驗視す所ハ接條能ク行フて壓條
を看ビ且川ノ法ヲ識ラセ給者多ク曾ク金
陵桑棉局ノ委員某ニ會話シテ其方々此本邦の
壓條法談マ及ハレト接條最佳ナリト答
ヘテ敢ク顧ルモノハ是也支那人ノ不開化な
る一證ナリ
全書ハ四葉ヲ有シ魯桑トシ葉ニ割込ニ有
ク荊葉トシ以テ荊桑を莖トシテ魯桑の枝ヲ接
スルヲ記セシ然レモ實地ニ接條の莖と
する為ニ播種セシものは悉ク亦ハ魯桑種ノ

圓葉を裁きの終り

蠶事ノ期ニ臨ムトキハ農商貧富ノ云ハス凡ソ舟楫ノ輻湊スル江河ノ岸頭常ニ高ヲ業トシ一步ノ桑田モ有クサル者アルニハ白屋茅堂ノ寒民ニ至ル迄マタ多少養蠶セサルモノナシ此ヲ以テ各所ニ桑葉行アリ若シ天候ノ変ニヨリ缺乏スル所ハ槓ニ投シテ利ヲ得ルアリ或ハ失フモ又タナキニアラス東西ニ狂奔シ南北ニ顛走スト云ヘリ

桑葉の賣買平時との郷里に在ては大なり

乍といへとも若を時変々因々湖々豊小して嘉の凶なりと云ふ如きに至るとは是數十里外と雖も舟楫乃便自由小糶糶をばと以て價乃昂低頃刻ニ轉變をと云ふ

桑田許多ヲ有テル豪農ト雖モ時リ巨万ノ蠶ヲ養フニアラス豫シメ家人ノ多少及室屋ノ廣狹ヲ計リ男女ノ雇工ヲ定メ以テ業ヲナス而シテ有餘ノ桑葉ハ他ニ賣与ス

一家巨萬を養ふは雖も縲紲の洋外小輸出内國ヲ要耗する能敷く於ては更細更小

冠を以て以て地方の廣き人民乃多きを察と
る小足をもと

廣蠶桑説ニ桑ヲ缺クすハ柘ヲ与フルノ言アリ此
書ヲ贈リタル蘇州ノ委員于吳之ニ質スルニ曰ク
柘ハ各地ノ山麓野畔ニ叢生スルモノニシテ楮ノ
類ナリ葉以テ蠶ニ飼フヘク皮以テ紙ヲ製スヘシ
然レニ柘ヲ養ヒタル蠶ハ繭線赤色ヲ帶ヒ其質硬
クメ精良ナラス若モ不幸ニシテ桑ヲ缺クすノ豫
備ノ為ニ數株ヲ植エルモノアリ山東ノ蠶ハ概テ
柘ヲ以テ養フ故ニ精良ナラス赤色ヲ帶フト云

へり

尚ホ其確證ヲ得ニカ為ニ蘇州ノ或ル養蠶家ニ到
リテ檢視スルニ桑林ノ外ニ柘樹ノ茂生セルモノ
アルヲ以テ其葉ヲ採リテ腊葉シ如フルニ上海ニ
テ數株ヲ求メ齋歸リテ臬檢セント欲セリ
柘ハ各地ノ山麓河畔ニ茂生セリ小ナルハ二三尺
ナレニ農家ニ植タルハ一丈乃至二丈有餘ナルモ
ノアリ然レニ蠶事ノ盛ナル地ニハ稀ニシテ僻邑
ニ多シ葉ノ形状ハ心臟様ニシテ厚ク深綠色ナリ
亦メ葉ニ割コミテ表裡トモニ纖細ナル柔毛

アリ漢英韻府ニ柘ハ桑ノ類ニシテ蠶ニ飼フヘシ
支那音「チョ」トアリ本邦ノ音ニスルトキハ「シヤ」ト

蠶室居家之概畧

蠶事盛大ナル地方ト雖モ然テ居宅ノ外ニ設ケタ
ル蠶室ト稱スヘキモノナシ然レモ昌盛ナル地方
ハ才ノツカラ富饒ニシテ頗ル巨家多シ其廣狹ニ
隨テ養育ノ多少ヲナス
支那ノ人性寒ヲ恐レテ暑ヲ怖レス故ニ室中ニ大
氣ノ流通スルヲ憎ミ四壁ニ窓アルモノ少レナリ
若シ適クアルモ之ヲ開カス炎熱ノ季ト雖モ開ル
ヲ常トス

外面ノ構ヘハ四圍トモニ屋棟ニ等シキ墻壁ヲ繞

ラニ或ハ亦々外面ニ家屋ヲ露ハシタルモノモ
只一ノ門戸ヲ穿テルノミニシテ漏戸ヲ設ケタル
ハ稀ナリ

内部ノ構作ハ通常門内ニ空室アリ之ヲ過キテ中
庭ヲ設ケ向面左右ニ房室アリ此各房ニ光線ヲ曳
クハ狹隘ナル中庭ニ依リ大氣ノ流通モ亦々此ニ
頼ルノ外ニ他氣孔アルハ殆ント稀ナリ

房室の形状は約と二三間四方の長形である
正面より中二尺高八尺程の扉二枚此扉の上
格子ニテ光線ヲ通暢ス方凡ソ三尺
キ大氣ヲ通暢ス

氣孔なく出入此戸に依り光線より此戸より
も十中の一ニ扉乃左より小窓を設けしはも
のり

或ハ亦々前面ニ垣シ門ヲ入テ直チニ庭ヲ設ケ
三方ニ房室ヲ造作シタルモノアリ是ハ大ニ都合
ヨキ形ナリ殊ニ田家ハカノツカラ寛裕ナル地
位ニ在ルヲ以テ中庭頗ル闊達ナルニ依リ蠶事ニ際メ
ハ以空地ニ仮屋ヲ設ケテ諸夏ヲ辨スルヲモ又々
アリト云ヘリ

樓ナク亦々天井ナク床ナケレハ家棟屋根ノ勾倍

高キニアラサレテ頭上敢テ低カラス足版ニハ上等ハ石ヲ敷キ中ハ瓦ヲ用ヒ下ハ板ヲ以テニアル
ヒハ土間アリ最下ナルニ至テハ帝ニ土間ノミナ
ルモノアリ

田家ト雖トモ必ラシキ樓ナキ小作りトモ此小記
トたふまは只其概畧ト云ふのみニ其余利或
ハハ物敷奇小く樓を造る者アリト雖トモ敢
テ蠶車ノ為ニ大ニ非ラシ亦貧家は殊小
低く簷端ハ首を傾ケテ風を得也
或ハハ亦ハ周囲頗る廣く内部ニ數個の屋棟

相連ちふと作り是ハ教戸ニ區別シ或ハ竈
を共ニ一或ハハ然ラズ然レモ思ハ小親族乃
別居セる者若クハ全く他人ニ貸シテ有
る為ニ農商トモ小此類まゝ多ク
或ハハ養蠶翁ニ會話シ上州島杯ニ在る三層
蠶室の写真キキハ其形を示シテ始ニ是敢
ク信セシ丁寧又覆シテ然る所以を示セシ小
彼ハハハハ我國の蠶ハ常小寒涼ニ損するを
苦シキ故ニ此乃如き開達至大乃蠶室を要セ
ハハ谷ハハハハ

器械

蠶桑ノ器械各種ノ形状等ハ蠶桑輯要及廣蠶桑説
ニ因テ加ヘ其用法ニ至ル迄詳ニ掲載セリ以書ハ
同治年中ノ撰ニ係ルヲ以テ方今各地ニ專要スル
モノヲ擧ケタルナレハ今マタコ、ニ贅スルニ及
ハサルヲ如シ然レモ各処ニ於テ視聽シタル一ニ
ヲ左ニ記スルハ他日ノ参考ニ具ヘンカ為ナリ
若夫陋巷僻邑ノ寒民矮乎タル白屋漸ク膝ヲ容ル
ニ過キス然モ其期ニ至レハ猶ホ蠶ヲ養フモノア
リ斯ノ如キ類ニ至リ豈又全フスルニ遑マヤラン

ヤ以テ取テ彼ニ充ツル其情態マタ察スヘシ
蠶籠ノ形状ハ奥羽ニ用ルルルノ藁坐ニ似タリ竹ノ
以テ精密ニ造リ底ハ糖節ノ如シ筵ノ類ヲ敷クコ
トヲ須ヒス唯稚蠶ノ細微ナルハ底ノ目ヨリ浅零
ルヲ防カニ為ニ紙ヲ張ル

此底ヲ張リ或ハ卵種を包むハ桑紙を要ス
ヲ紙説有クヤ以テ之ヲ尋ルルマ是ハ普通の
紙ハ之何ク破れ易ク用テ適セハ楮皮ヲ製
シたふヲ要ス蓋シ楮拓ハ桑乃種扇ヲ製ハ桑
紙ト稱スヘシ

支那に一種の紙有り桐油紙或いは物を包む
小要を即ち上といふ柔紙あり本邦の紙に
比するは劣ると雖も彼ら通常の紙は比
ると劣るは久しきに堪るとする所也

其大にサハ經三尺五寸ナルヲ最大ナルモノト
シニ尺五六寸アルニハ二尺ニ盈タヌモノアリ業
ノ大小アルニハ便ニ依ル

蠶籠の形は各処大概に全規をきとる地方の
便より異なる殊異なるもの無き小あり以金
陵の揚子江に瀕するを以て蘆荻ノ價最も廉

なりと云ふを以て凡百の要に充つるに芦荻を
須也故に蠶籠に代する小芦荻の細代を交へ
用ると其より長さ約を四尺有餘りて横は凡
そ二尺五寸なり長江の芦荻は太き本邦の
雌竹の如く其重は全く竹より小異なら
ず

亦一種あり竹を以て造る目の大いなるを以て
其の薄きを紙或いは「ア」ペラの粗なるを敷
く形状用法信州にて要するものと異ならぬ
江蘇の各地にて円形なるものと交へ用ゆ

とす

桑葉細剉ノ臺ハ藁ノ心ヲ竹輪ニテ掛、束ヲタル
經約リ一尺ノ圓形ニシテ高サ四五寸上面少シク
凸ニシテ下底ハ平ナリ爪ヲ以テ之ヲ試ムルニ恰
モ木ノ切口ニ似タリ

藁ノ臺を用やば包丁能く又と傷たさる為小
して稚蠶の食量多うらむる時ハ随分然るへ
き重とも壯大ニ至ると多量と要をばれは如
何と思へるを以て之が質を小假令多量と
及みとも他の物を用ひを以て器成個を具へ

木板の類を要せしむる

亦曰く此藁臺ハ清浄なるを貴小所以なり木
板類を用ゆると泥ハ不潔にして蠶兒ニ害あ
らんことを恐るるの説あり然れども全く俗習あり
て理乃原批をば評するに足ら
ざるへ

包丁ハ小ニシテ本邦ノ鈍ノ如シ是レ臺ノ大サニ
應シタルモノナリ

藁臺及包丁の小なるを以て蠶事始終の要と
通する是則ち一家巨万乃蠶を養てをば

徴を孔に足れり

蠶籠ノ架棚ハ三角形アリ四角形アリ凡テ便利ニ
隨テ全シカラス木造組立ニシテ八層ヲ大ナルモ
ノトス大小ハ籠ニ応シテ異同アリ或ハ板ニ竹木
ヲ架渡シテ置クモ亦タ無キニアラス
節ハ総テ竹ヲ以テ編ミタリ眼ノ大小亦タ用法ハ
本邦ノモノト異ナラス
籠ハ藁ノ長サ約一尺ヲ円サ一握程ニ全長ノ七分
ノ処ヲ束子其長キ方ヲ散乱シテ蠶ノ足代トシ短
キ方ヲ四方ニ擴メテ例レサラシム

籠ヲ盛ルニ葭藁製造ハ本邦乃と此と全カシテ聊カ大
ハリリマシカト云々無キト云々
ヲ要ス竹木ニテ假ニ四脚ノ板臺ヲ設ケテ以テ安
處ス疊々重ヌルヲ須ヒス只一段ナリ是ハ寒濕
ノ時ハ底下ニ炭火ヲ要スルニ依ル

籠ニ葭藁ヲ盛ラシテ以テ常トナレトモ或ハ板
籠亦並ヘテハハ臺ノ類ハ敷キ並ヘテ
亦ト適クマシカト云々亦ハ板各自便利ト云々セシ
處を添ふ云々

桑條ヲ伐ルニ鋏ヲモチテ本邦ノ山鋏ニ似タリ籬
鉋ノ類ヲ以テ切ルノ無シ其木幹ヲ傷シコトヲ恐

ル、ナリ鋸ニテ切りカタキハ鋸ヲ以テ映ハ支
那通常ニ用ユル鈎掛鋸ナリ亦夕梢高クシテ鋸
ノ及ハサルモノハ鈎ヲ掛ケテ曳付クルナリ鋸
鈎ノ因、廣蠶^桑説ニ詳カナレハ爰ニ略ス
蠶糞ヲ採ル網ハ全ク魚網ニ異ナラス本邦ニ用ユ
ルモノ、如キハ更ニ之ヲ肯ス
梭子ハ喬木ノ桑葉ヲ摘ムニ要ス組立ニシテ運轉
ニ便ス本邦ノ江濃三越及ヒ但馬ニ丹ニテ用ユル
モノト異ナラス
桑樹ノ表皮中ニ莖ノ附キタル寸ニ皮ヲ剥キテ捕

ル器アリ廣蠶桑説中ニ図アリ是、未タ本邦ニナ
キモノニシテ便ナルカ如シ
蠶兒アルヒハ細判セル桑葉ヲ運フニ大ハ各種ノ
竹筐アリ圓圃ヨリ摘葉ヲ運ヒアルヒハ桑葉ヲ貯
フル籠ノ類ハ形状頗ル本邦ノ各地ニテ用ルモノ
ニ似テ最モ佳ナリ

支那の産竹ハ其性好クシテ竹工甚々巧みな
リ蓋是ハ養蠶器具ニシテ凡百の竹器の精
巧な物は本邦乃工人ナシ及ハキト云ハル

養育方法

蠶事ノ最盛ナル江浙各所ノ莫地ニ就テ耳目シ且
ソ二三得ル所ノ蠶書ヲ閱ミノ參考スルニ本邦ノ
上古ハ暫ク置テ中古以降迄頃ニ及テ迄ノ養育方
法及器械要法ノ類ニ至リ恐ラクハ此國ヨリ傳ヘ
タルナルヘシト惟ヘリ

抑モ卵種ヲ懷ロシ只暖惟温以テ愛育スト云ヘルガ
如キハ本邦マタ有リ奥羽甲信ノ養法頗ル相似ス
然リト雖モ地形寒煦ノ全シカラサル或ハマタ
人性才ノツカテ有ラル智巧ニヨリテ發明スルモ

ノ無キニアラス今ニ至リ我カ彼ニ優レル亦少シ
トセス今其異同ヲ舉ケ以テ参考ニ供
毛蠶ヲ養フ竹器ニ実スルニオカイ子私稻草灰ヲ以テシ蠶
糞ヲ採ルニ私榴糖灰ヲ要スルハ本邦ノ粟糖叔糖
ヲ用ユルト全要異種ニシテ奇ト云フヘシ其理ヲ
尋ヌルニ此ニ種ノ灰ハ其性爽ニシテ濕ナク特ニ蠶
ニ宜シ是レ古ヘヨリ傳ヘタル良法ナリト云ヘリ
此灰の性乃爽めて湿なく云々此説を考ふ
る小頗るいゆべく其理を竭も能く然れ
と思ふ蠶兒灰裡ニ在テホツトアスレの分

子ありいは眼口氣孔ニ侵染し苦惱を致故小
之を避ん為ニ桑葉ニ登ラシメ速ヤリなれど
きは便宜ナリト云々其理を竭も能く然れ
以理いも竭も能く然達乃蠶翁其意之
を如何とす

蠶ヲ養フテ最モ憂フヘク且ツ意ヲ注クヘキモノ
ハ蠶病ナリ其幼稚ヨリ壯大ニ至ル迄各種ノ病患
ヲキ中ニモ夫ノ舍利ト云ヘル如キハ己ニ老ニ向
ニトメ祭スルカ為ニ多日養育ノ勞ノハナラス巨
額ノ費用ヲ併テ一朝ニ擲リニ至ル故ニ各地ニ至

ル母ニ必ス先リ病患ヲ質ス然ルニ或ハ陰陽五
行ニ托シ若クハ寒温燥湿ノ不順ニ生シ又養育ノ
不適ニ成ルト云フ所以養育ノ適否イカニテ咨フ
ニ答ヘハ只酸昧ニ属シ其救フヘカラサルニ至レ
ハ天ナリト云ヒ甚シキニ至テハ道ニ依リ仏ニ頼
リ斃ルニ至リテ命ナリト云フ

卵種ヲ製スルハ素ヨリ各自来年ノ要ニ供スル為
ノミナレハ頗ル簡易ナリ始メニ略記シタル如ク
己ニ爾ヲ成スヤ豫シメ要スル所ノ適宜ヲ考ヘテ
爾ノ最美ヲエラニ雌雄細長ヲ雄トシテ分チ炭火

ヲ以テ温度ヲ与ヘ速クニ化蛾セシメテ雌雄一
ツノ頭ヲ偶合セシム以テ如クスルナハ卵種精良
ニホメ繅絲ノ業ト混同ス凡テノ順序都合好シ
ト云ヘリ惟フニ是ハ自己ノ原種ヲ製スルノ良法
ト云フヘキナリ

支那蠶者ノ為ヲ見聞シ且ツ蠶桑書中亦
丁寧ニ其方法を記シ不有ト云フ聞ク頗ル感す
る所有ニ其理イテ之ヲ竭スルニ雖も積年
ノ経験ニてもて木ノつら小得を分ち其女
ト支那人ノ蠶支ニ注意ス乃他ニ異ナク

徴す所不足也

支那養蠶乃法は較之るも其の温暖を主として本邦上武に於てするに就て大に相及せざるを以て疑ひなきと克くも痲慮を煩くし小至れり曾く漢口小於て支那人の家は高き一十餘日連朝の梅霖膠鬱ひきいど蒸氣閉塞して殆んど病を發せんとせり今も福建省城中の旅館に在る一室は高きにして三朝は曇天微雨適來り膠鬱の酷く其曩小漢口に在りし時と異なりし

時今十月二十九日 嶺脚ニ十月廿一日 嶺脚ニ十月廿一日

檢す所はレマハハレの二十強に登りて惟ふ

小間廣ハ元来暑熱の地なりと雖も煩熱乃

斯所ときものは室屋管作表不都合にして大

氣通暢の其宜くを得ざるなり

茲小因り熟考するに夫の温暖を意して火

力を用ゆるも其事實に於ては識らば室中

閉塞乃腐敗氣を掃攘す所の詮要とすべき事

なるは疑い無し然則ち支那の養蠶小於てハ

火力の缺く處なりと云ふべし

らひ

母蛾卵種ヲ産終リ其色ヲ変スルヲ度トシ石灰ニ埋メテ之ヲ貯ヘサレハ再化シテ来年ノ用ニ供スルコト克ハサルノ説アリ古ヘヨリノ慣習ニシテ然ラサレハ再化スト云フ方法ハ廣蠶桑説ニ審ラカナリ

石灰は凡ての孵化及腐爛を防ぐに理以るに非ず是は再化を防ぐハ勿論ナリ然レモ是ハ本邦乃再出蠶の類ニシテ満紙悉皆再化するハはあらくと思へば然レトモ支那梅雨の候ハ

実ニ堪へ難き温熱ナレハ必らず然らば云ふニ能はし其きくとの晩き以てみつら試せると能はし

全書中ノ醃種法ト云ヘルモ又々上ニ記シタルト同ノ慣習ニテ為スモノナリ然カセサレハ蠶児薄弱ナリトス書中詳説アルヲ以テ爰ニ贅セス

鹽氣を以て卵種乃薄弱ナレハ殺し壯實のものを孵化せしめると云へば本邦にて寒水に浸すと同轍なるものなり

初眠起ヨリ二眠マテハ蠶糞ヲ隔日ニ取りニ眠起

ヨリハ毎日ニ取ルヲ佳トス支那ハ天候ノミナラ
ス室屋閉塞セルカ故ニ然ラサレハ必ス害ヲ醸ス
ニ至ルヘシ

大眠ノ後ニ蠶倉ヲ設ケテ器械ノ不足ヲ補フノ説
アリ廣蠶桑説中詳クニ其方法ヲ掲載セルヲ以テ
コ、ニ省ク

蠶倉を設く所の實地必ら以然る可非ら
と思ひて之を問試ニするに孰れも皆然りと
云へし嗚呼支那人の始有て終なきこと爰悉斯
の如く甚く亦や若し一旦變りらハ數十日乃

勞費と雖小併に一掃をへし誠と駭くへまな
其殊に免る事ハ僥幸なり以て又
何とや

繰糸

夫レ養蠶ノ業ハ古来女工ニ属スト雖モ歲月ヲ逐ヒ
 盛大ニ赴クニ隨テ男子マタ後事セルニ至ル殊ニ繰
 糸及織造ハ多ク男工ヲ要セリ
 支那各所一般ニ要スル繰糸器械ハ本邦通常ニ用ル
 モノト異ニシテ椅子ニ腰カケテ運用スル故ニ其形
 状頗ル大ヒナリ足ヲ以テ撥ヲ動カシ手ヲ以テ繭ヲ
 理スル之ヲ一人ノ課トス竈下ノ火ヲ着ルハ時トメ
 他一人ヲ要ス
 直ニ大枠ニ卷クヲ以テ再ニ繰返スニ及ハス且此枠
 ノ下ニ適宜ナル炭火ヲ置キテ自ラニ乾燥セシム通
 常一人ニテニ繰ヲ繰理ニ熟シタル者ハ三繰ヲ繰理
 ス故ニ小枠ヨリ大枠ニクリ返スト別ニ乾カス為ニ

周旋スル時間ヲ省ク
然レトモ其機械ノ大ナルニ隨テカヲ要スルモ少
ナカラサレハ婦女子ノ柔弱ナルヨリモ男工ノ壯強
ヲ要セリ本ナカラ婦人亦々之ヲナスモノ無キニハ
アラズ
内國ニ要スルモノハ繭凡ク十顆ヲ一縛トシ外國ニ
輸出スルモノハ約ク四ヨリ六七ニ至ル而シテ此雇工
ハ湖州ノ者ヲ精巧トス此地ハ従来輸出ヲ專トスル
ヲ以テオノツカラ好ク精緻ノ業ヲ勉ム
雇工ノ俸ハ業ノ巧拙ト多少ニ依リテ定ム譬ハ何
等ノモノ一日哉個ヲ課トシテ哉許錢トスルノ類ナ
リ
雇主ハ亦々之ヲ慰撫督責ニテ其惰ヲ戒メサル寸ハ

時間ヲヌスミ細大不存ノモノヲ製シテ損害ヲ惹起
スニ至ル爰ヲ以テ雇主諸般ニ細心注意スルヲ以テ
緊要トス
故ニ雇工ヲ要セス一家人ノミニテ繰繰ノ業ヲ勉ム
ル寸ハ憂ナキニ近シト雖モ養育ヲ終ヘ復々之ニ續
クノ業輻湊シ且巧ミニスルノ美ナキニアラサレハ
雇工ヲ要スルニ至ル
繭ヲ殺スニ炎日ニ曝乾セシ之ヲ燥殺シ或ハ流殺
ス中ニ就テ流殺陰乾スルヲ佳トス
此ニ法ヲ須トズ成繭ノ終ル直ニ繰繰スレハ精良ニ
シテ光澤最佳ナリ然レモ此蛾ノ迫ルヲ以テ已ムヲ
得スシテ燥汽ノ法ヲ要ス
江蘇省柘江又到王蠶者陳潤齋ヲ養育を一首

したゆゑ成繭の未央なる有る己の産卵を乳
とのちを傍らに紡車を運用するを所阿り思
ふに総て以て乃蠶事といひても分量より
きりも流燥の二法を要するにして業が終へり
なり

織造府縣

江蘇省

金陵 江寧府 南京

三國ノ時吳主孫氏創て此に都を建て建業ト號
し近クハ明ノ初代マタ此に都ス

織造品類

緞子 各種

織出ノ損容大小各様アリ

縐子 各種

織出ハ各様ナリ中ニ四龍ノ五爪ハ皇帝ノ
御取三爪ハ品官ノ服マタ無紋ナルモアリ

天鵝絨

織造ノ方法ハニ夕畦毎ニ銅線ヲ剪出スヲ
法トス故ニ時間ヲ費スル多シ

古ノ三品ハ金陵ヲ目シテ天下第一トス故ニ數町ニ
梯比セル織造家大抵子他ヲ製スルモノ少レナリ而
北京ニ輸スト雖モ亦夕他ノ各所ニモ輸送セサル
ニアラス蓋シ粟スル所ノ縹絲ハ湖州ノモノヲ以テ
佳トス

浙江省

杭初府

南宋此ニ都ニ臨安ト號セリ

織造品類

紗綾 各種

紋紗綾 各種

縞紗 各種

紋縞紗 各種

右ノ四品ヲ杭州ノ名産トス亦夕他各品ヲモ尽ク製
造ス縹絲ハ地方ノ産ヲ用エト虫尾呂類ニ依リテ湖
吳ノモノヲ要ス

浙江省

嘉興府

織造ノ品類ハ杭州ニ類スト雖モ杭州ノ盛ナルニ如カスト云ヘリ未タ親視セス唯傳聞ノ概約ヲ記ス

浙江省

湖州府

各種ノ織造アリトモ金陵杭州ニ比スレバ少ナリ之ニ及シ縲絲行ノ盛ナルハ各地ノ企及ハサル所ナリ是レ其府城ノ浙江縲絲ニ最タルノ地位ヲ占メテ

湖江河舟楫ノ便ニ因テ外國輸出ノ利ヲ專ニニ加フルニ内國各地ノ織造ニ供スル縲絲尽ク之ヲ作クヲ以テナリ故ニ縲絲ヲ談スル者ハ必ス湖及ヲ以テ口実ト為ス浙江ノ縲絲品位ハ此地ニ於テ一定スト云ヘルモ敢テ虚ナラサルヘシ

浙江省

紹興府

此地マタ各種ノ織造アリ縲絲ハ湖州ヲ作リ盛大ナルニアラス地ニ産スル縲絲ハ各色ノ素絹ニ適スルニ過キス

浙江省

甯波府

蠶桑アリト雖モ粗ニ少ナリ其地ニテ各色素絹ヲ要スルニスキス

江蘇省

蘇州府

春秋ノ時吳王夫差ノ居ニニ當時ノ姑蘇城是ナリ

織造アリ各色尽ク具ル只金陵杭昆ニ一等ヲ讓ル上好ノ素絹アリ然レモ縑絲粗ナルニテアラス亦タ洋外ニ輸セリ織造局ハ蘇州ヨリ約ニ十四五里隔テル王江ニ在リテ各色ヲ製造ス

福建省

福州府

蠶桑アリト雖モ盛ナラス漸ク粗ナル素絹ニ適ス

全省

漳州府

廈門港ヨリ十五六里湖江ノ地ナリ

蠶桑アリ敢テ盛ナルニアラス然レ亦夕各色織造
有ト虫トモ佳妙ナラス所以田舎向ト云ヘルニ近
シ要スル所ノ縑絲ハ浙江四川等処ヨリ輸入ス

雜

支那全州ニ於テ蠶事ニ有名ナル地方ノ外亦各處
ニ於テ蠶桑ノ業ヲ為サバハ非ス各色素絹好上
乱ハ龍門の如く下等なる或ヒハ真綿ヲ紡績シ
モのハ根古屋絹の如し
タル紬絹ノ類ハ各處ニ於テ織造セリ唯其品位ノ
精良ナラガルト多クアラザルノニ寧波福州ノ如キ
亦然リ

寧波ハ培桑適宜ノ地歟ナルヲ以テ地方官或ヒハ
下民ヲ勸奨スルモノ無キニアラザルモ之ヲ實地
ニ施シテ其理ヲ示ス事ヲナサズ後ラニ文筆ヲ弄

僅々ノ著書アリト魚氏管下ノ人民ニ亦目下生
計ノ餘暇ヲ得ルハ少レナルヲ以テ此ヲ熟讀觀味
スルニ至ラズ空ニク篋底ニ埋没ニテ紙魚蕃息ノ
處トナルニ過ガルノミ

地方官ノ諸ノ生産書以著して下民ニ布達セ
るものハ其意ニ事ノ實際ニ奉る以樂ふニ非
之ニ就し密而ニ已むる虚譽或致るニ過キ
次と云へる者何リ此説ハ當ら次と虽とも違
からざる可し

蕪州城中察院街ノ東ニ課桑園義塾ト云へルアリ

桑ヲ栽テ蠶事ヲ勸奨シ郷里ノ子弟ヲ教導スル為
ニ設ケタルモノナリ碑銘アリ左ニ録ス

課桑園義塾

此東園潘部郎所建也
部郎生長華胄不急仕進唯秉先志以嘉郷里為
務兵燹後民力困悴念東南蠶桑之利均於農而
吳郡素少桑乃闢地植桑以為之倡意良厚已而
又構義塾於其側延名師課讀里中子弟管子曰
十年之計樹木百年之計樹人是役也庶乎其兼
之矣茂林夏同善書并識

湖州ノ繅絲會社ノ中ニ天生絲行ト云有リ此舖ニ
在ル丁源ト云フ者ニ上海同社ノ紹介ニテ出會シ
本年以來ノ景況ヲ咨フニ本年ハ各處ノ生絲上等
ノモノ少キヲ以テ湖州ノ生絲声價ヲ得タルカ如
シト魚氏全ク僥倖ニ屬ス素ヨリ繅絲行ノ顯伴ハ
声價ヲ得ニテ欲シテ何レモ注意シテ其精粗ヲ
撰ムト魚氏或ヒハ悉ス可能ワズニテ時ニヨリ大
ニ声價ヲ失フニ至ル可アリト云ヘリ

繅絲輸出の多少或ハ價の昂低ニより政府
令以下して損益し或ハ補助を蒙る等の事ハ

無きやと探り問ふニ夫等の処分ハ更ニ有る
事礼し唯政府ハ定額ノ稅收及洋外輸出
ニハ復ト裁許ノ課稅收納むるの外ハ更ニ煩
着札しと云ヘリ

本年ノ繅絲ハ浙江ノ産平均八分トシ本年ニ比ス
レハ少シク凶ニ屬シ中ニモ湖州ハ約ソセズニシ
テ品位一等ニ出ルコト能ハス南潯ノ産ヲ以テ第
一等ノ品位ト定ムト云

南潯ハ太湖の南岸といふ義ニして湖州ニ屬
せしと云はれ地廣く繅絲まゝ産れり茲以て區

別して糸をる乳毛

江浙地方ニテ養フ処ノ蠶ハ總テ白繭ニシテ本邦ノ青白種ノ類ハ絶テ有ルナシ故ニ江浙ニテハ黄繭ノモノヲ概シテ野蚕ト唱フ夫ノ山東ハ古ノ齊魯ノ地ニシテ久シク蠶桑ノ名アレト今ニ至リテハ野ト云ヒテ其賤シムコト養蚕術外ニ處ナリ四川モ又古キ蠶桑ノ地ニシテ黄白ノ二種アリ洋外へ輸出スルヲ以テ見ルハ盛ナリト云ハサルハカラス夫ノ繭綢ト云フモノ山東四川ノ産ニシテ其実ハ粗繭ヲ紡績シタル細綢ノ類ニテ織造ノ真

面目ニアラス実地ニ就テ検査セハ佳品アルハ疑ヒナシ或ヒハ又湖北河南安徽モ亦蠶事アリ巡迴探討セハ織造其他器械、如キモ江浙ニ未タ見サルモノアルニ期限已ニ迫リテ調査ニ違アラズ遺憾ナリト云ベシ

杭州、西湖ハ世ニ有名ナル名勝ノ地ニシテ楊柳ヲ以テ糸スルモ実地ニ就テ之ヲ省レハ湖畔ノ農家桑柘ヲ培植スルコト今年ハ去年ヨリ多ク去年ハ亦本年ヨリ繁殖スル秋勢ナリ

西湖の長堤十里六丁里

楊柳の下ニ多くハ桑

樹ヲ培植セリ想ふニ數年或經るの后ハ恐らくハ桑樹長堤に繁茂して湖畔此景色或一變
花るに至るへし

上海城外西南ノ方約ノ一里餘隔テタル地ニ順法
滙ト云フ處アリ此邊ハ外國人ノ別業或ハ植木
屋等アル處ナリ此地ニ泰昌洋行^{佛人}ノ製絲場アリ
リ流力ノ谷械アリテ格別大ナラス機関ノ室ハ約
ソ二十間ニ八九間ノ鍊化石造ノ平家ニテ傍ラニ
ニ階造リノ四方十間程ノ家アリ此ハ工人ノ居ナ
ルヘシ繭ハ蒸シテ陰乾ス置場ハ板屋ニテ四圍開

達ニ庭園モアリテ大氣流通適宜ナル形状ナリ製
絲ノ業ハ既ニ終リタル時ニテ支那人ノ「ホーイ」
ヲミナシハ詳カナルヲ問フ事能ハサリシ
杭州ヨリ錢塘江ヲ渡リテ行程凡五里紹興府マテ
ノ地ハ田園少レニシテ桑柘ノ類ヲ看ス然レモ往
昔吳王夫差カ越王句錢ヲ棲マシメタル會稽山ハ
紹興ヨリ凡五里ヲ隔テ僻遠ノ地ナレモ農家ニ間
々桑ヲ栽ヘタリ王羲之カ蘭亭此山陰ニテ今尚ホ
存セリ此園裡農家ニ少アリテ桑ヲ栽培ス
紹興府城東南ノ門ヲ出テ餘姚縣ニ至ル路程約ソ

六十里ノ間ノ河畔或ハ田園ノ經畝ニ桑ヲ栽ヘ
タルヲ省ル敢テ盛大ナラスト蚕比ニ夕省ルニ足
ル
凡テ織造ハ男エテ要シテ女エテ須ヒズ婦女ノ織
工ニ關スルハ絲ヲ繰リ篠ニ捲クノ類ノミ然レモ
適々細綢ヲ織ルモノヲ省ルト蚕比亦是モ男エテ
多トス最モ細綢ニ要スル絲ヲ紡績スルハ婦女ノ
課ナリ此ヲ以テ養蠶ノ始メヨリ織造ノ終迄ヲ會
算スル時ハ男子ノ工役三分ノ二ニ處ルトセリ
卷首ニ蠶卵輸出ノ禁無キヲ記セテ后ニ猶竊ニ

思惟スルニ陽ニ禁ナレト雖モ陰ニ之ヲ抑制セル
有ルカ如シ支那ノ政体概ネ斯ノ如キ類アルハ素
ヨリ異ムニ足ラサル事ニシテ今茲ニ一夏ヲ挙テ
以テ之ヲ證セシキス
支那各地ニ産スル所ノ茶葉ノ數ニキハ衆ノヨク
識レルモノニシテ洋外輸出品ノ最タルモノナリ
然ルニ條約中茶子輸出ノ禁アルヲ省ス而モ陰ニ
之ヲ嚴禁シ背ク者ハ酷刑アリト曾テ福州ニテ茶
子ヲ購入タルヲ汽船ニ積ントスルニ臨ニ委員楊
氏殊ニ苦心シタルヲ以テ察スルニ足レリ

凡テ其國ニ最佳ナル物産アルハ之ヲ秘シテ他邦ニ傳フルヲ忌メリ是ハ他邦ニ播殖スル寸ハ自巳ニ利スルノ幾分ヲ奪ハル、トスル各情ヨリ成来レルモノナリ甚シキニ至テハ茶子ヲ熱湯ニ浸シ其發生セザル様ニシテ欺クニ至ル實ニ聞クニ堪ヘス卑劣ナルヲナラスヤ而シテ此ノ如キ弊風ハ敢テ農商輩ニハ稀ニメ却テ行政上ヨリ施セリトス

湖州ニ於テ蠶卵ヲ購ハントスルニ委員于實之カ周旋ニテ一紙ヲ得タリ亦杭州ニテ得ントスレモ易

カラス然レモ湖州ノ一紙ヲ以テ事ノ足レルカ故ニ要求セスシテ止ミヌ
或ハ桑苗ヲ購ハント代價ノ凡計ヲ預ケテ其期ニ至リ上海ニ着セシ時ニ清算スヘシト托スレモ一人モ其意ニ應スルモノ無ク殆レト窮シタリ恐ラクハ復是レ壓制上ヨリ来レルモノナル可シ
繅絲ノ精粗アルモハ代價ノ高低ニ就キ政府ヨリ保護ヲ加ヘ損益スル如キハ更ニアルヲ無シ只定額ノ課税ヲ聚斂スルノ嚴ナルノミト虽モ夫ノ繅絲行、各社中ハ頻年低價ノ憂アリテ損失アルニ

有キ新聞紙等ニ注意シテ其精ヲ撰ムテ以テ昨今
年ハ低價ノ憂ヲ免ル、ノ形勢アリ此社中ノ支那
人ハ外国人ニ通交スルヲ以テオノツカラニ開化
シテ他ノ支那人ト參商隔絶ス此各社中カ此ノ如
クスルノ惜ラスニテ數年ヲ經ハ支那産絲ノ面目
ヲ一洗シ不注意ノ名ヲ免カレ隨テ声價ヲ得ルニ
至ルヘシ是則チ支那政府ノ僥倖ト云フ可キナリ

金陵桑綿局ノ委員函式文其外ハ咨問

之條件 ● 我摘要

○ 我等ハ大日本内務省勸業寮農務養蠶課ニ係
ル貴国蠶事ノ精好ナルヲ聞ク因テ貴地ニ来
リ蠶事ヲ曉得ント欲スルノニ敢テ他事アル
ニアラス

● 敝局蠶桑輯要ノ一書アリ具ニ蠶事ヲ載テ

内ニ在リ明日以テ一本ヲ奉贈スヘシ

○ 蠶事ノ盛大ナルハ何レノ地ヲ以テ最トスル

ヤ

● 我カ湖州ヲ以テ最トス

○ 貴國ノ桑樹各種幾個アルヤ

● 荊桑野桑魯桑家桑ノ二種アリ則チ門前ニ

栽ルモノ魯桑ナリ

桑綿局ハ南京ノ城北妙相庵中ニ在リ此
ノ門前ノ空地ニ約九百株見本ノ為
ニ栽ヘ坐るもの田葉礼也

○ 荊魯ノ苗種之ヲ得ルヲ得ヘキヤ否

● 桑葚ヲ用テ種出スヘシ

○ 葚種ノ季節ハ何時ヲ以テ佳トスルカ

● 總テ春季ナリモニ苗種ヲ用ニト欲セハ宜

ク出桑地方ニ到リ其秧子ヲ買フヘシ

○ 出桑ノ地方何レノ処カ佳ナルヤ

● 浙江ノ石門桐郷ノ二縣ヨリ出ツ我門口種

ユル処即チ石門ヨリ買来ルモノナリ

○ 桑綿局ハ國費ナルカ或ヒハ私費アルヒハ商

人ノ出費ナルカ請フ之ヲ示セ

● 並ニ私費ニ非ス亦々高費ニ非ス前爵閣督
憲曾國藩此ニ在テ建立ス其費藩庫ヨリ領

ス

○ 曾公カ愛民ノ拳實ニ嘉スヘシ始テ桑棉局ヲ
建ルノ片普ノ下民ニ示ス処ノ論文アルヘシ
諸ノ之ヲ示セ

● 毎年桑秧ヲ蒺スル時ニ敬局委員議定ノ刊
示ス曾公ノ論文アルナリトシ

○ 貴局ノ論文請フ一省セシ

● 越日當サニ之ヲ查シ尚ホ存スルモノアラ
ハ奉贈セシ

他日此論文此事沿革尋ニニニ既ニ刊シ
望以ヘシ

○ 敬局東京ノ近邦上野州ニ在ル養蠶室榑閣三
層ニ造ルモノ、提圖是ナリ農田島姓彌平名
私費ヲ以テ建ツル所ナリ

● 養蠶ノ室此ノ如ク講究ス貴国蠶事ノ認真
ヲ見ルニ足ル

○ 貴国養蠶ノ器及ヒ製絲器械ハ何レノ地ヲ以
テ佳トスルヤ我レ之ヲ購求ント欲ス請フコ
レヲ示セ

● 亦タ敬省湖州ニ出ツ総テ貴国器械ノ精妙
ナリ如キ能ハス以テ應用ニ堪ルニスギサ

ルノ三

此前ニ博覽會事務局より出版せる養蠶
手曳冊及び製絲一覽の一枚を贈りたる
によりて斯く答へ奉呈し礼り

○ 聞説ク客歲貴國輸出スル處、蠶絲西洋ニ於
テ声價最貴ニト是レ貴局製糸精妙ノ功カ抑
亦タ他ノ事故アリテ此ノ如キカ

○ 敝局ノ製絲ハ都テ織造衙門ニ供シテ龍衣
ヲ織リ並售出サス西洋所賣ノ絲ハ總是レ
故省湖州ニ出ス所ニシテ本年系出甚少ナ

ルヲ以テ其價昂スル所ナリ

○ 内國ニ要スル處ノ絲ト西洋ニ輸出スルモノ
ト其製必ス殊異ナルヘシ

○ 製絲法俱ニ載テ蠶桑輯要ニアリ以テ細玩
スヘシ大約十餘枚ヲ以テ一更ト做ス

右委員関式文関廣論父子との問答あり
湖州北産ニシテ此地に奉任有

○ 頃者ル貴國生絲養蠶助覽極テ精細ヲ尽ス
敬処ト大ニ別アリ才賦中外ニ利スルヲ見
ルニ足ル

○ 西洋人ノ日蠶ノ蠟ニ化セスシテ蛆ニ変スル
 ハ唯貴國ト我日本ノミト豫防ノ良法アリヤ
 ● 蠶ノ良種ハ嘉興湖州ヨリスキタルハ十三
 蛆ヲ防リ定法ナシ全ク天時人力ノ施巧ニ
 憑ルノミ
 ● 敵局種桑法一篇アリ亦々其大旨ヲ過マラ
 ス請フ一省セヨ明日奉送セシ
 右師爺繅絲ノ頭取ト云フノ類ナリ碩椽軒との問答札リ浙江
 沿警縣の人にして此に奉任ト
 此他の問答ハ畧して誌せり

江浙蠶桑紀事附録

閩廣之記

曩々江浙蠶桑紀事ヲ編輯すて小稿成ると既少
 閩廣ノ地方を巡廻し其蠶事いふん故査問す既
 素より江浙乃盛大に及々其後八年を全ふし
 て論を起しりしと雖とも子向可きと既無
 きふありん爰を以て耳目に感觸す所を記し
 以て巻尾ヲ附すと云爾

福建ノ地勢ハ無數ノ山嶽相連り木材杉及ひ樟多かりとすヲ

産スルノミナラス亦タ第一茶葉正クニ冰糖白糖
ノ輸出スルノ多キヲ以テ人民之ニ因テ生計ヲ為ス
モノ多シ

故ニ蠶桑アリト雖トモ敢テ云フニ足ラス去ナカラ
杭廣ノ境ハ凡テ行路艱難ナルカ上ニ強悍不化野蠻
ノ巢窟ニシテ暴殺掠奪ヲ莫トス
此ヲ以テ衣料ヲ内地ヨリ海運スルニ價ノ廉ナラサ
ルニヨリ漳及ニ私立織造局アリテ以テ各種ヲ製ス
而シテ其縲絲ノ上等ハ杭州ヲ仰キ其他ハ巴蜀雲南
等処ノモノヲ要ス素ヨリ田舎向ニシテ江浙各地ノ

モノニ比スレハ其及ハサルヤ遠シ

漳易乃織造品の中ニ縲絲と木綿糸とを交
へ織リて其縲絲ノ上等ハ杭州ヲ仰キ其他ハ巴蜀雲南
等処ノモノヲ要ス素ヨリ田舎向ニシテ江浙各地ノ
いま、曾て看せしむるのなりしは以て
此地の縲絲其貴きと知るは足らざるは
其織造乃本旨なりんや邊鄙の情態を憐
れん

廣東ハ外國交際ノ最ニハヤク開ケタルヲ以テ人
情亦ノツカフ開化シタル効アリ省城中外ノ屋室
凡テ鍊化石造ニシテ壯麗清潔ナリ故ニ暑威仲冬

ニ彌ルト雖に大ニ凌キ易シ巡歴シタル各地ノ中
ノ第一等ト云フヘシ
西門外ニ私立ノ織造局アリ連費比屋數十家殆ン
ト百家ニ向ントス江浙ノ織造品モ亦又模造シテ
肉眼ノ視ル處別ツ能ハサルカ如シ
中ニモ各色ノ紗ハ殊ニ美ナリ緞綢ノ類ハ金陵蘇
杭ニ比スレハ劣リテ價モマタ廉ナリ要スル所ノ
縲絲上等ハ浙江ヲ作キ或ハ順徳巴蜀ノ産ヲ用
ヒ下ニ至テハ雲南等ヨリ輸ス
蠶事ヲ以テ稱スルノ地ハ省城ヨリ南ニ當リ水行一

4

日路程ヲ隔テル順徳縣ト云ヘル地ナリ
縣城ノ中外ニ桑林栢樹アリト雖に最盛ナルハ南方
一里餘ナル羊額郷ト云フ地ニシテ四方凡ソ五六里間
平坦ニ桑園相連ル
羊額郷ニ私立織造局アリテ數十家連續ス工人ハ男
エニシテ各色ヲ織ル中ニモ紗ノ類多ク且ツ美ナリ
省城西門外及ヒ此處の織造ハ紗乃類多ク
て且美ナリ其地方温暑ナキは其要也
と此等ノ依ニ木坊つうら子然るものなる

羊額郷ハ省城を距ると僅に十五六里なりと
と田家の風ありて外國人乃到らざる地なり
故に將又岸不上らんとす孰も忽ち無數の頑
民群来り四方を圍繞して歩が進むる克もに
洋鬼コウキと罵る有り礫を擲り巧に護送の縣卒制
すれと聞うに織造及び養蠶器類を查聞を
るに諱をくして辭を通ずる由なく殆ん
と因するり至りたる

桑樹ハ江浙ニアルモノト同種ニテ円葉ナレトモ栽
培ノ方法ハ大ニ其趣ヲ異ニス

4

園圃ハ凡テ平坦ニシテ畦ノ間ハ約二尺直線ニ並列
シ毎株ノ隔ハ約一尺低株ニ作り枝ノ生立タル形状
上武ノモノニ似たり

省ル処ノ桑株ノ太サハ五六寸アルヒハ七八寸廻リテ
地上凡ソ一寸五六分ノ処ヨリ伐リテ枝條ヲ發萌セ
シメシナリ

毎株ノ間タ甚タ接近セルヲ以テ枝ノ生立宜シカラ
ス一株漸ヤク十四五條ニテ細ク長サハ凡ソ四五尺
ニ盈タズ

氣候温暑殆ント冬節ナキカ如クナルニ依り春夏二ノ

回ノ業ヲ終ヘタル後ニ發シタル葉既ニ老散リ時今
十二月ノ初旬芽四回ノ萌芽ヲナシ大ヒサ一二寸ノ
葉ヲ生セリ

苗種ハ總テ播種ニシテ敢テ接條セス生長ニ隨テ適
宜ニ伐リシテ低株ニ仕立タルナリ

江流ニ沿フタルヲ以テ培肥ニハ專ラ水草ヲ要ス他
人糞ハ春耒一回培フニスギズアルヒハ野草ヲ養フ
モ亦有リ

喬木ニ栽ヘタルモノヲ見ズ人家ノ外圍ニ適、柘樹ア
ルヲ省レ凡亦タ敢テ考カラス其在ル所ハ概テ桑園

少ナル地方ニ屬ス

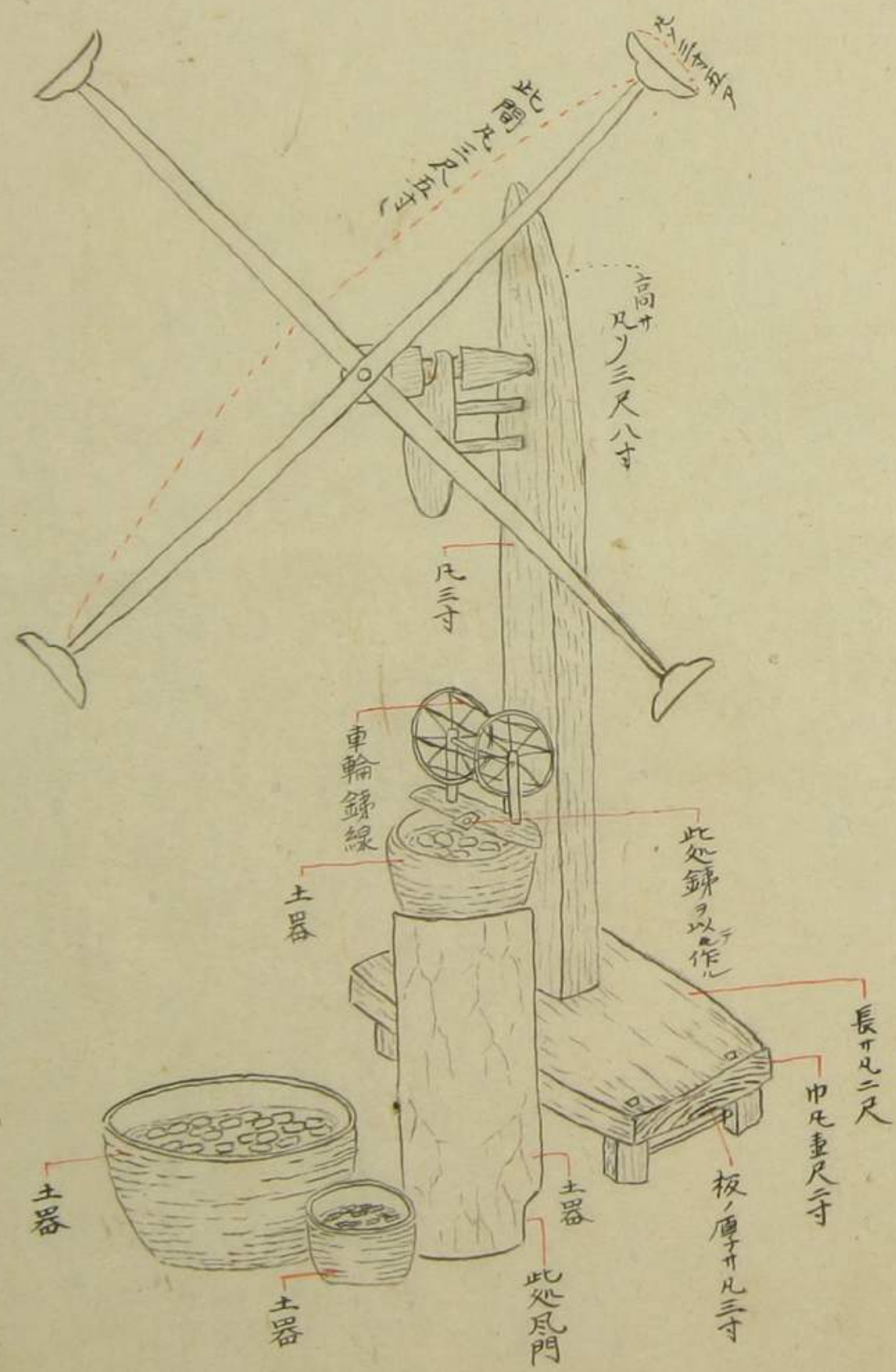
河畔アルヒハ蔬菜園圍ノ經界ニ桑樹ヲ栽培ス然レ
トモ專ラ蠶桑ヲ業トスル地ナルヲ以テ菜園稍田ハ
考カラス

蠶室ハ素ヨリ無シ各自居室ニテ養育ス田家ノ風ニ
テ考クハ土間ナリ或ヒハカワラヲ敷キタル家モ亦
ナキニアラス中ニハ物置ノ如キ所ニテ養フモノア
リ一般ニ畝ノ如キ形状ナレハ掲ケ記スヘキコト無
シ

器械ノ類ニ至リ凡テ簡便ニシテ内地ノ如ク各種全

具セス譬ハ桑葉ヲ細削スルニ通常ノ包丁ヲ用ヒ
アルトハ藁臺ヲ要セスシテ木板ヲ要スル類ナリ
蠶籠ノ形ケハ江浙ノモノニ似テ粗ナリ我九州地方
ニテ諸般ニ要スル「バラ」ト云フモノニ異ナラス
箬ハ甚タ古凡ニシテ太約堅テ四尺横ニ尺竹ヲ以テ
編ミ凸凹屈曲シテ蠶ノ足代ヲナシ幾歳モ要スル為
ニ作ル其名状ス可カラサルヲ以テ見本ヲ購ヒタリ
蓋シ箬ト箬トヲ兼併セタルモノナリ
養育ノ方法ハ支那一般ノモノト大ニ異ナル無ト雖
凡其地位温暑ニシテ春来直ケニ日照ナルヲ以テ他

各地ノ如ク寒冷ヲ畏レ只温唯暖ヲ專トシ稍モスレ
ハ火力ヲ假用スル如ク最稀ナリ
故ニ其屋室ノ構作モ他ノ内地ニ比スレハオノツカ
ラニ大気ノ通暢適宜ナルニ似タリ
天候温暑ナルヲ以テ春蠶ヲ終ヘテ復タ夏蠶ヲ養フ
ニ餌食猶餘リアリト云ヘリ
繅絲ノ品位ニ至テ江浙ニ比スレハ及ハスト雖トモ
然モ猶ホ閩廣數百里地方ノ織造ニ供スルニ足レリ
敢テ内地其他ノモノヲ作カサルモ餘リアルニ似タ
リ然ルモ尚ホ四川雲南等處ノ繅絲ヲ輸スモノハ他



ナレ其地ノ廣キ人民ノ多キヲ識ルニ足ル
 一縷ニ爾七八顆ヲ要ス爾ハ総テ白爾ナリタマミ
 黄赤ナルモノアリト雖モ硬ク且ツ粗ナリ是則ケ柘
 葉ヲ養ヒタルナリト云ヘリ予障リ上好麻糸ノ織細
 ナルカ如シ
 繰絲ハ専ラ女エヲ要ス多クハ其家人ナルモノナリ
 呂械ハ製造頗ル古凡ニ属ス一人一縷ヲ繰ルモノニ
 シテ既ニ經過シタル内地ニ於テ未タ曾テ觀サルモ
 ノナリ故ニ粗図ヲ左ニ掲ク此ニ據テ模造スルモ亦
 タ難カラサルヘシ

織造ハ男工ヲ要ス物ニヨリテハ婦女ヲ要スルモアリト雖トモ西門外及ヒ羊額郷等ニテハ未タ曾テ看サリシナリ器械ハ他各地ニ要スルモノト敢テ異ナルニナシ

廣東省

廣州府

織造局ハ府城西門外及ヒ順德縣下羊額郷數十家アリ

織造品類

各色ノ紗 各色綿紗
 紗 綾 絨 緞
 網 緞

此他マメ内地各所ノモノヲ摸造シ肉眼ニ分テ克クサルニ至ル然レモ前ニ略記セル如ク炎暑ニ要スル紗ヲ以テ美ニシテ且ツ多ナリトス

前々録キハ十一月十八日此地ニ未ダテ各所を巡廻査問セズとの記録キ於テ尚以地ニ滞留セリ中リ視聽セリ於テ有リト記述之ニ次々追録す

天蠶絲ハ廣東省城ヲ距ル約七十餘里ナル東安縣下羅沙縣ノ地ニ産スルモノヲ上等トス省城ノ内外ニ販賣スル家數多アリ

此虫ハ四月頃三脚ノ樟樹ニ自生シテ其葉ヲ食ヒ六
七月六脚ハ已ニ長大ニ至リタルヲ捕テ解剖シ腹中
ニ在ル脂肪状ナル原絲ヲ採リ出シテ醋酸ニ浸ス
暫時ソノ粘固セル適宜ヲ認テ片端ヲ木ニ結付手ニ
テ滯リナキ様ニ曳延スナリ
以醋ニ浸スノ過不及ト曳延ハ手加減ヲ最肝要ナ
リトス何ントナレハ醋ニ浸スト少ナレハ曳テ断切
シ多ナレハ凝固シテ快ヨク曳延シカヌシ
若シ之ヲ曳クノ緩急不齊ナレハ節ヲ生ス緩急適宜
ノ加減ハ各己方ノツカラ得ル処ノ手熟ニシテ人ニ

傳フルコト能ハスト云フ

此天蠶絲の説は廣東にて高家小因東安より
来り一人ノ咨問したる処ナリとも莫く概畧小
して明亮なり故に其地小就く査問せんと思
へると其期よりらひ茲に因て委員俵培之ノ説
小より俵彼より東安縣令小質一精説を記し以て
上海領事館へ寄贈をへす事と約定せり

